

2021年室内環境学会学術大会報告

大会長 山中俊夫（大阪大学）

実行委員長 吉田俊明（地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所）

2021年室内環境学会学術大会は、2021年12月2日（木）から4日（土）まで開催されました。会場となった京都市サーチパーク（KRP）西地区では大会前日の12月1日に評議委員会、2日から3日にかけて、総会、シンポジウム、研究発表、メーカープレゼンテーション、企業機器展示、出版委員会セミナー、学生懇談会が開催され、4日には「京の伝統的住まいと室内環境」と題した学術大会テクニカルツアーが開催されました。開催形式については、最終的に対面とオンラインを併用するハイブリッド形式とさせて頂きましたが、現地参加者273名、オンライン参加者80名の計353名のご参加を頂きました。開催地の京都では、いずれの日も天候に恵まれ、オンラインの方々も含めて非常に多くの方々にご参加頂くことができました。

今年の大会テーマは「地球温暖化対策と室内環境イノベーション」とし、同題のシンポジウムでは、各分野での第一人者である下田吉之先生（大阪大学）、松原斎樹先生（京都府立大学）、伊香賀俊治先生（慶應義塾大学）、堀川晋様（株式会社日建設計）の4名の方々にご講演を賜り、会場からも熱心なご質疑・ご討論を頂き、非常に有意義なシンポジウムとなりました。また、今年も昨年に引き続きポスター発表は中止となりましたが、一般口頭発表は125題を数え、非常に多くの室内環境に関する研究成果が発表され、活発な質疑応答が展開されました。また機器展示では13社にご出展頂くことができ、他のイベントにも、例年通り多くの方々のご参加を頂きました。また、4日（土）のテクニカルツアーでは、古の花街である島原と有名な揚屋建築の角屋、さらに93年前の環境建築として有名な大山崎の聴竹居（藤井厚二設計）を訪ね、木造建築の持つ室内環境の魅力と可能性を探訪することができました。

なお、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、大会行事としての懇親会は中止とさせて頂き、新型コロナ感染対策に注力しながら開催を行いました。無事に新型コロナの感染は報告されませんでした。

以上の通り、2021年学術大会は、多くの皆様のご支援とご協力により、無事成功裏に終了することができました。ここに、ご講演・ご参加頂いた皆様、理事会、学会事務局、そして大会実行委員会の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

なお、次回2022年室内環境学会学術大会は、2022年12月1日から2日にかけて、東京都内で開催される予定です。また皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。



シンポジウム



口頭発表



テクニカルツアー（聴竹居）